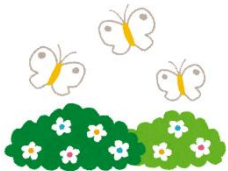




昨年の11～12月に市民の方と中高生を対象に、「男女共同参画・人権に関する意識調査」を行いました（5年に1回実施）。今回から数回にわたりその結果を一部ご紹介します。

果たして、松本市の男女共同参画の状況は5年前の前回調査時と比べて前進しているのでしょうか？！

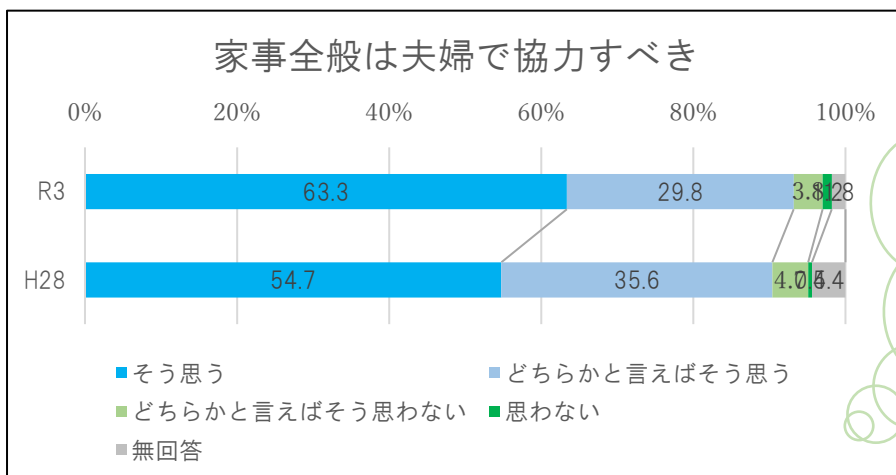
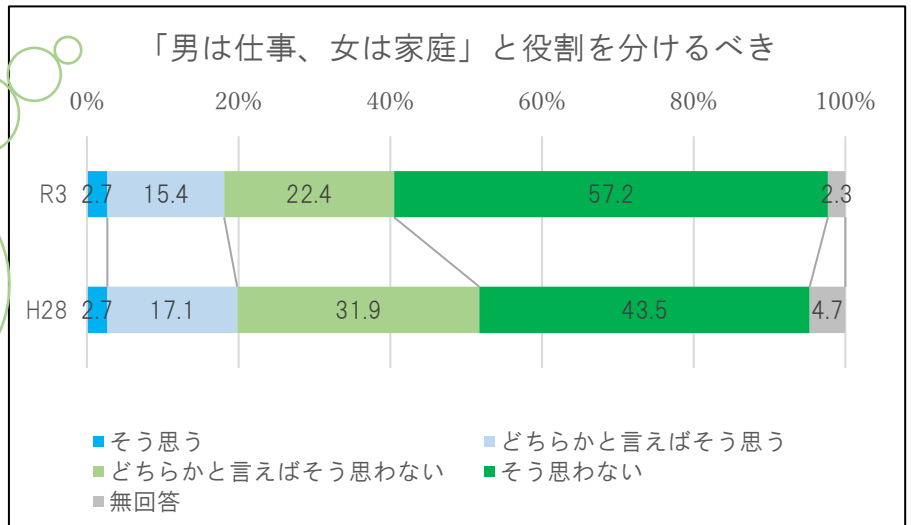


市民意識調査から見えてきたこと

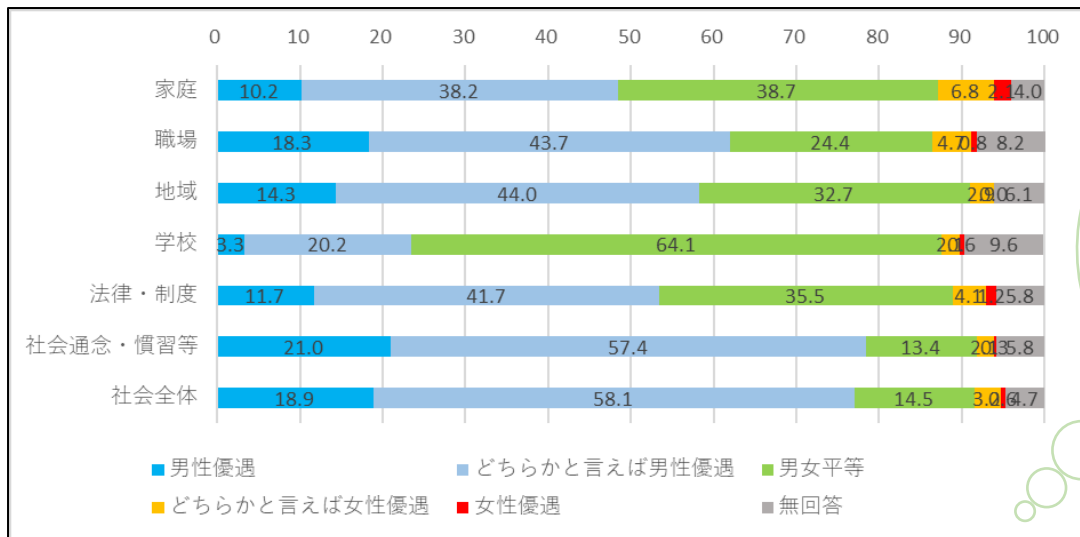
～ 一般編 part1 ～

- 対象：一般 1,500人(回収率43.8%)、中高生 2,200人(回収率62.0%)
- 方法：郵送による回答及びインターネットによる回答(中高生はインターネットのみ)
- 質問項目
 - ①一般:家庭生活、就労、社会参加、教育、ドメスティック・バイオレンス(DV)、基本的人権、男女共同参画
 - ②中高生:家庭生活、学校生活と学校で学習したこと、働くこと、人権、男女共同参画

「男は仕事、女は家庭」と役割を分けた方がいいかとの問いに対して、79.6%の市民が「(どちらかと言えば) そう思わない」と回答しています。前回5年前に比べ、4.2ポイント高くなっています。



家事全般は夫婦で協力した方がいいか尋ねたところ、市民の93.1%が「(どちらかと言えば) そう思う」と回答しました。なかでも5年前と比べ、「そう思う」と回答した人が8.6ポイントも増えており、3人に2人が夫婦間の家事の協力に肯定的なことがわかります。



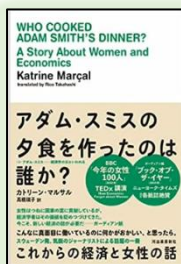
各分野で男女が平等な立場になっているか尋ねたところ、ご覧のような状況になりました。

緑が「平等」、青が「(どちらかと言えば)男性優遇」です。全体的に青が多いように感じますね。

全体として5年前の調査より、男女共同参画が進んでいる様子が分かりますが、それでもまだ依然として男性優位の社会が残っています。次回のニュースレターでも引き続き、結果を報告していきます。

新着図書のご紹介

パレア松本には図書コーナーがあります。どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。



『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?』

(カトリン・マルサル、河出書房新社、2021年)

市場は常に合理的だと考える経済学にとって、世界の多くの国の女性が担っている家事や育児は「存在しない」ものなのか。経済学の父と呼ばれるアダム・スミスにも研究にいそむ間、身の回りの世話をしてくれる人がいたのです。

『ルポ コロナ禍で追いつめられる女性たち』

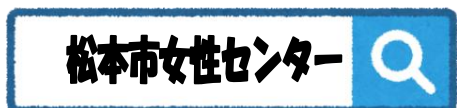
(飯島裕子著、光文社新書、2021年)

コロナ禍で明らかになった、女性が職場でも家庭でも辛い状況に置かれてきた現実。筆者が行った当事者への聞き取りからは想像を超える、女性たちの困難な状況が浮き彫りになっています。



この通信は、松本市公式ホームページでも見ることができます

Facebook もやっています!



＜編集・発行＞

松本市 人権共生課 (松本市女性センター)

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 / FAX 0263-37-1153